

## 日本のジェンダー平等はなぜ後れているのか ～男性の働き方・暮らし方から考える～

日時 2022年11月25日（金）13：00～14：30

場所 千里山キャンパス 尚文館 1階 マルチメディアAV大教室

講師 多賀 太（研究員、文学部教授）

SDGs（持続可能な開発目標）の1つにも掲げられているように、「ジェンダー平等」は、国際社会および国や地域が持続可能に発展していくための喫緊の課題であるが、日本はこの点で大きく後れている。世界経済フォーラムによる2022年のジェンダーギャップ指数でみると、日本のジェンダー平等達成度は146か国中116位であり、OECD加盟国では最下位レベルである。女性の地位向上のために女性支援策の拡充が重要なのは当然だが、こうした男女格差が男女の関係性のもとで生じている以上、ジェンダー平等実現のためには男性の変化が不可欠であり、男性に焦点を当てた施策の充実も求められる。本講座では、これまでの日本の男性の働き方や暮らし方をジェンダーの視点から問い直し、日本のジェンダー平等が後れている大きな原因の1つが「男性稼ぎ手」を標準とする労働慣行であること、女性の地位向上や人権保障のためには男性の変化こそが求められていること、さらにはジェンダー平等の実現は性別にかかわらずより人間らしい十全な生活を可能にする点で男性にも多くのメリットがあることを確認する。そして、ジェンダー平等推進に向けて、政府や自治体、企業、そしてわたしたち一人ひとりに何ができるのかを考える。

\* \* \*

●聴講無料  
(定員80名／先着順)  
＜事前申込制＞

人権問題研究室ホームページ トップページ (<https://www.kansai-u.ac.jp/hrs/>) にある「新着情報」内の本講座案内ページの申込フォームから事前に受講申込をしてください。定員になり次第、受付を終了します。

※受講申込にあたっては、以下の〔新型コロナウイルス感染予防対策〕にご留意のうえ、ご理解とご協力をお願いいたします。

〔新型コロナウイルス感染予防対策〕

- 受講者はマスクを必ず着用してください（マスク着用でない場合、受講はご遠慮ください）。
- 受講者は受付で手指消毒用のアルコールにて消毒してください（会場内は事前に消毒を行っています）。
- 座席は間隔を空けて設定いたします。また演台に近い座席は使用しません。
- 換気のため、会場の出入口のドアは講演中も開放いたします。
- 三密対策として、会場内やロビーでの談笑はご遠慮ください。
- 当日、体調不良の方、特に喉の痛み、咳、および熱のある方（体温が37.5℃以上の方）の受講はご遠慮ください。当日は入場時に検温を行います。
- 参加者に感染者が発生した場合は必要に応じて、保健所など公的機関へ氏名および連絡先の情報が提供されることがあります。
- 接触確認アプリCOCOAのインストールを推奨します。
- 感染拡大の際は、講座の開催を中止する場合があります（その場合、受講申込者に連絡いたします）。

手話通訳が必要な場合は、11月2日(水)までに人権問題研究室へご連絡ください。



主催 関西大学人権問題研究室

〒564-8680 吹田市山手町3-3-35 阪急千里線「関大前」駅下車

Tel 06-6368-1182 Fax 06-6368-0081

ホームページ <https://www.kansai-u.ac.jp/hrs/>